

今後の課題について

(1) はじめに

平成 23 年度第 1 回永田浜ウミガメ保全協議会での議論を踏まえ、今後、永田浜ウミガメ保全協議会で解決すべき課題をまとめた。

(2) 今後解決すべき課題

1. 8 月（ふ化期）の夜間臨時開館の実施

平成 23 年度は NPO 法人屋久島うみがめ館（以下、うみがめ館）のボランティアが集まらなかったことで、夜間臨時開館は 3 日間しか実施されなかった。夜間臨時開館の体制と開館が困難な理由は、以下のとおり。

- ① 夜間臨時開館の実施には、うみがめ館の職員及びボランティアがあたる。
- ② 同時期にうみがめ館では、ボランティアが主体となってふ化調査を実施している。
- ③ ふ化調査の実施が優先であるため、ボランティアが少なければ、ボランティアだけでなく、職員もふ化調査を実施する。
- ④ ボランティアがいなければ、うみがめ館で夜間臨時開館にあたる人員を確保できない。

2. 協議会メンバーによる「永田浜ウミガメ観察ルール」違反の改善

明かりの取扱いに関するルールが遵守されていない。また、今年度は、ウミガメ観察会スタッフによるウミガメ保護柵内への進入が見られた。ウミガメ観察会実施時期にウミガメの上陸数が少なく、産卵個体が保護柵内にしかいない場合に、保護柵内に入って観察してしまっていた。

3. 永田浜以外の浜におけるウミガメの保護対策

永田浜以外の浜でもウミガメ観察に訪れる観光客が増加している。永田浜には自主ルールがあるため、自由な利用ができるという認識から他の浜でのウミガメ観察が増加していることが考えられる。

4. ウミガメの卵の食料としての利用

屋久島にはウミガメの卵を食べる習慣が各地にあり、卵を食料として利用し、物産として販売したいといった意見がある。現在は、自然公園法及び鹿児島県条例で、ウミガメの捕獲若しくは殺傷、又は卵の採取若しくは損傷が制限されている。

5. 永田浜におけるルールの周知不足

永田浜には、永田浜ウミガメ観察ルールに関する看板が設置されておらず、浜での当該ルールの周知・徹底が不十分である。

6. 子ガメのふ化環境の保全

砂浜への入り込み者による踏圧で砂がかためられて脱出できずに子ガメが圧死したり、街灯に引き寄せられて脱出後に海にたどりつかない子ガメが確認されるなど、子ガメのふ化環境の改善が必要。